

環境経営格付評価の結果(2003年度)

2002年度と比較して、

- ・全体的に、成果系の評価が向上している
- ・評価分野「経営」では、極めて高い水準の評価結果が得られている
⇒参加企業が、取り組み、対応している

よって、格付評価の経験が、参加企業の環境経営の水準を引き上げていると思われる

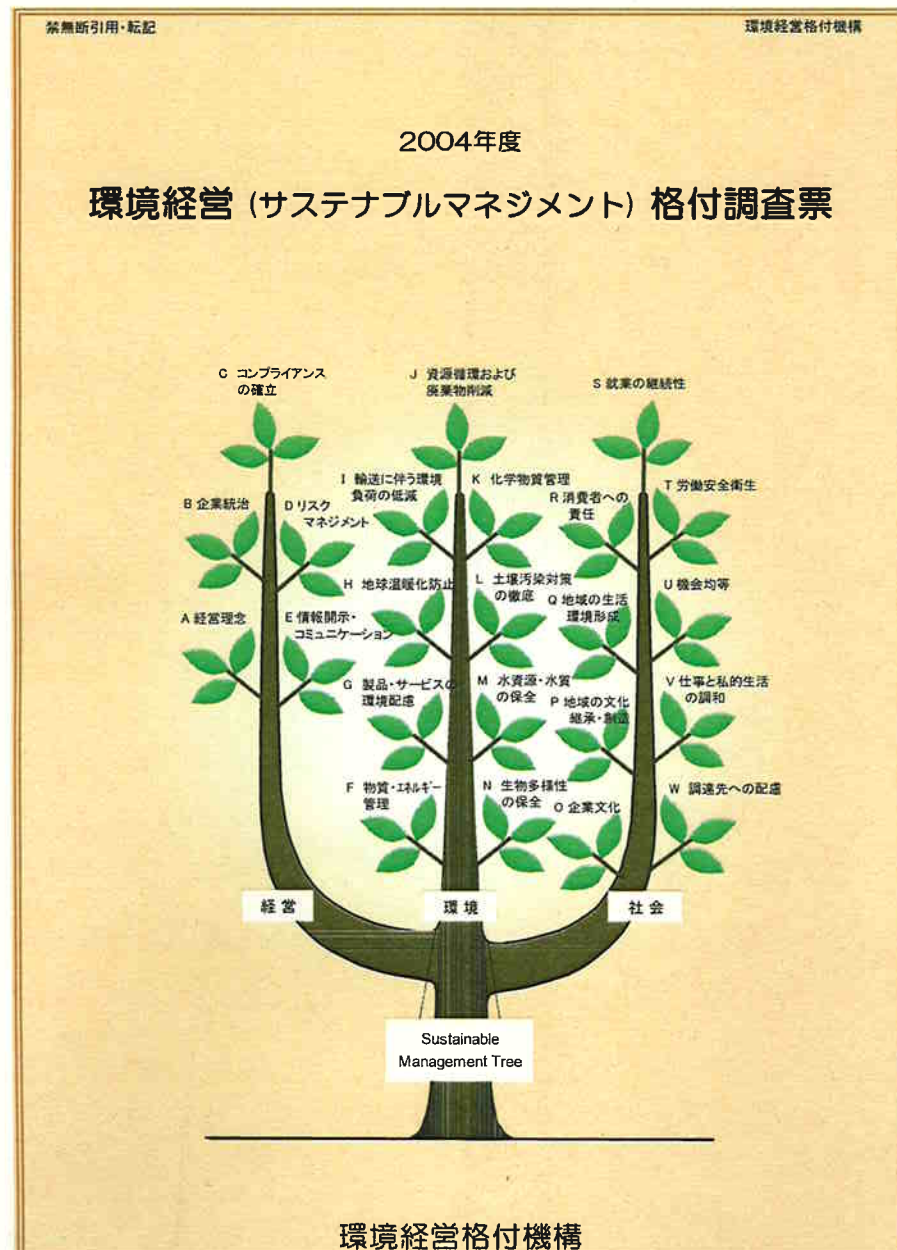
2004年度における環境経営(サステナブルマネジメント)格付の特徴と狙い

(特徴) 2004年度の環境経営格付評価では、

環境経営だけでなく、国内外で議論されるCSRも含めて、評価している。
CSR関連評価はわが国の社会的特性を反映するものとして構成している。

(狙い) 環境経営格付評価への対応を通じて、企業の社会的信頼を獲得し、
持続可能な社会の実現に不可欠な企業行動理念を実践する経営、
すなわち「サステナブルマネジメント」を提案している。

2004年度の環境経営格付評価の側面



■第3回2004年度 (23項目)

経営 (5項目)

- A 経営理念
- B 企業統治
- C コンプライアンスの確立
- D リスクマネジメント
- E 情報開示・コミュニケーション

環境 (9項目)

- F 物質・エネルギー管理
- G 製品・サービスの環境配慮
- H 地球温暖化防止
- I 輸送に伴う環境負荷の低減
- J 資源循環および廃棄物削減
- K 化学物質管理
- L 土壌汚染対策の徹底
- M 水資源・水質の保全
- N 生物多様性の保全

社会 (9項目)←(7項目)

- O 企業文化
- P 地域の文化継承・創造
- Q 地域の生活環境形成
- R 消費者への責任
- S 就業の継続性
- T 労働安全衛生
- U 機会均等
- V 仕事と私的生活の調和
- W 調達先への配慮

環境経営格付のこれから

- (1) 環境経営学会が、持続可能な社会を形成するために、
 ベストとする企業行動を参加企業に示し、誘導すること。
→社会や多様なステークホルダーの企業に対する期待、懸念および関心を
組み入れた環境経営格付評価の内容の充実を図る。
- (2) 環境経営格付の活動を通じて、企業との対話を重ねていくこと。
→環境経営学会と企業経営者間の、双方向のダイアログの実施を図る。
- (3) 実施した環境経営格付評価の結果を、広く公表していくこと。
→持続可能な社会形成のための、環境経営格付に参加した企業と、
社会や多様なステークホルダー間の橋渡し役となる。